

内視鏡外科手術における臨床工学技士の役割

恵佑会札幌病院 臨床工学科

塚本 真司

当院では内視鏡外科手術の増科に伴い、接続関係を中心としたトラブルが増加し、その対応に医師、看護師のストレスが高まっていた。それらを解消する目的として、2009 年より手術室に臨床工学技士（以下 CE）を専従配置した。

CE を手術室に配置した当初は、機器の接続やトラブル対応が主な業務であった。しかし、その業務だけでは 1 日の仕事量に変動があり、CE を専従させる事は業務上有効では無かった。また、当院では医師及び看護師不足が深刻な問題となっていた。そこで、直接介助、鏡視下手術のスコピスト等の清潔野補助及び介助業務を追加した。

その結果、CE の仕事量を安定させる事が出来た。清潔野介助を行った成果として介助業務を介して機械の使用方法や注意点を理解することが可能となり、準備やトラブル対応等に有効であった。

また、ロボット支援手術のドッキングでは、CE が清潔野介助を行う方がその所要時間は短かった。

当院の CE はスコピスト等の清潔介助を行うことで、手術に深く関与した感覚を覚え、遣り甲斐を強く感じている。また、その経験を本来の業務に活かすことができおり、当院の CE は清潔介助を切り離せない業務と認識している。医師達は CE によるスコピストで施術に差が無く、医師不足に貢献が出来ていると認識していた。

装置開発の安定と共にトラブルは減少するのが一般的であり、現在の内視鏡外科手術装置は一昔前の装置と比較するとトラブルが極端に減少している。しかし発展中である daVinci 等の高度医療機器は、機械操作や準備が複雑で機械に特化した CE の介助が有効と考えられる。

今後、我々 CE は清潔野で医師達の機械操作をサポートしつつ、その経験を従来の業務に活かして術者の意図に合致した機材の準備やトラブル対応を行うことが必要である。そうすることで、高度な医療機器を使用した治療を安全に提供することが可能であり、CE の存在意義が高くなると思われる。